

## 永勝寺 聖徳太子像

大谷派 横浜市戸塚区下倉田

### 永勝寺由緒

永勝寺13世が書き記した『御相殿略縁起』（永勝寺略縁起）によると、もとは天台宗であったが、聖人関東教化の頃に、帰依して真宗に改宗した。また、『新編相模国風土記稿』によると、安貞2年（1228）から文暦元年（1234）に至る7年間、小田原国府津の眞樂寺と鎌倉を行き来し、『一切経』校合の際は、当寺に宿泊することが多々あったことが記述されている。

親鸞聖人帰洛後は聖人の直弟子である真仏の孫にあたる源海の子、誓海（関東六老僧）が住し、当初は長延寺と称していたようである。

後に武田信玄が長延寺より僧侶を招き、お側衆として信頼され、後に甲州に長延寺を建立したとの記述もある。武田氏没落後は小田原北条氏による真宗弾圧を避けるために永勝寺と改め、甲州の寺は光澤寺と改めたとある。光澤寺とは現在の甲府別院である。もともと長延寺は武田家に縁があり甲斐に疎開し、その後、長延寺は何ヶ寺かに分かれていったようである。

『新編相模国風土記稿』には、当寺の什物として親鸞聖人自作の「親鸞聖人御真影」と「七高僧」の像を伝えており、御真影においては「常盤の真影」と呼ばれるものであると記述されている。「七高僧」の像は宣如上人の時に本山に寄進し、「御真影」は、戦国時代に散失し、近隣の寺に安置してあったところ、寛永12年（1635）に宣如上人が江戸より下向、当寺に逗留の折に所望されたことにより寄進されたようである。

### 聖徳太子像

製作年代は南北朝時代のものであるが、聖人自彫りのものとも伝えられ、鎌倉七太子に数えられている。胎内には太子自作の2歳の自身の像が納められている。現在、県の重要文化財に登録されている。



永勝寺 聖徳太子像

### 袈裟掛けの松

当寺には以前、親鸞聖人が袈裟を掛けられたという松の大木（昔は小松）が、境内から離れた昔の大門の脇にあったようだ。

横浜市戸塚区と栄区は鎌倉市に隣接しており、古くは鎌倉郡山之内庄と称していた。永勝寺は今でさえ住宅地のなかにあるが、昔の写真を見ると寺の眼下には田が広がり、丘陵の斜面に伽藍が囲まれている。鎌倉あたりの古い寺院の特長のようなのである。

また、当寺の前の道は鎌倉街道の「中の道」と呼ばれ、鎌倉と甲斐・信州あたりまでを結んでおり、また、鎌倉に向かう近道も付近を通っていたようだ。よって親鸞聖人が帰洛、または鎌倉に入る道すがら逗留して縁を結んでもおかしくはないだろう。